

古今類句

ち
う





ち



玉葉旅
玉葉雜二
山家集下
族梅冬
玉葉冬
新漢音雜上
六生二部中
拾遺賀
族古冬
新漢古冬
山家集上
玉葉祿祇
新漢苦
金葉契
致於送賀

名主にての海れ島津浪
船り行浦りて足わせハ
月の住ミテやうに家ミテ
嘗風ミテまはし松ミテ
浦松の葉ミテもつ年射
がわく衣ももりいつ川
かわく衣のあうま雲
生三部中月清ミテ木をも取
さむれ数ミテえりくわらきくら波の兩ミテ
くわねどらひつみとけめの
有明の原ミテ外ら声リミテ
さわうて内ミテもくらん
うりしれゆゆまの浦
風もや浪のそくもくひつちの声ひくや房
自氣も岩の浦まにゆけ
水の面にまくひらめれ
作の松わきひ草の手も
ひく松大原のいなげれも
名主にての海れ島津浪
船り行浦りて足わせハ
月の住ミテやうに家ミテ
嘗風ミテまはし松ミテ
浦松の葉ミテもつ年射
がわく衣ももりいつ川
かわく衣のあうま雲
生三部中月清ミテ木をも取
さむれ数ミテえりくわらきくら波の兩ミテ
くわねどらひつみとけめの
有明の原ミテ外ら声リミテ
さわうて内ミテもくらん
うりしれゆゆまの浦
風もや浪のそくもくひつちの声ひくや房
自氣も岩の浦まにゆけ
水の面にまくひらめれ
作の松わきひ草の手も
ひく松大原のいなげれも

格達賀
壬生ニ卒下 が葬のわふ日月はもくちとすむに死んで
長秋承摩 宿もくものえよりて居へ ちとせどく ほらの松
月清集ト 松舟を作の難 うそく うもせと妻のつく家
因花賀
君代、ゆゑの角のそはん ちとせとてまきんを道 おとせ
恵拾送雜四 とけくまねはみをひかく うとせとてや、紙、まくと
新拾賀
君代、ゆゑの角のそはん ちとせとてや、紙、まくと
拾玉集四
君代、ゆゑの角のそはん ちとせとてや、紙、まくと
千載尺教
君代、ゆゑの角のそはん ちとせとてや、紙、まくと
後撰事下
君代、ゆゑの角のそはん ちとせとてや、紙、まくと
水そものくまよさねつるよ ちとせとてや、紙、まくと
祚第一集の松のくまよさねつるよ ちとせとてや、紙、まくと
月清集上
君代、ゆゑの角のそはん ちとせとてや、紙、まくと
弦古賀
君代、ゆゑの角のそはん ちとせとてや、紙、まくと
弦拾詠祇
君代、ゆゑの角のそはん ちとせとてや、紙、まくと
弦伎撰賀
君代、ゆゑの角のそはん ちとせとてや、紙、まくと
新弦古賀
君代、ゆゑの角のそはん ちとせとてや、紙、まくと
新古賀
君代、ゆゑの角のそはん ちとせとてや、紙、まくと

金葉賀
拾送雜下
わよとえもいふものももしねちとせよもれまくまのうへ
金葉賀
新多喜賀
あす衣田裏け候もとあちとせをよもく思原忠季
拾玉集三
ほの師へ三世の伝をよき川ちとせうよもくそり
壬生二家中
松風やもまの浦よかよるまちとせをゆくあひま
郭勒蜀旅
立あももももいきのまぐにちとせとそひをさなむ左京大夫歌
孩子賀
あつたとくも紫のあやかなまくらをよしわせくね法皇おひな
淡子賀
あくとくもののまくらをよしわせくね法皇おひな
拾送朴承
わよ坂とりまくもれいじんあらちとせうめよまく
玉葉賀
わよ坂とりまくもれいじんあらちとせうめよまく
拾送賀
扇月のまくらをよしわせくね法皇おひな
拾玉集四
うわくもつみ前日のまくらをちとせのうちのよよちりよもくち
恵拾送賀
よもくもく休よしてじまとちとせのまくあんせん源順
金葉
白雲よまくもくれ相よりとせの春をよし
待賢院書
孩子賀
松風よすがふよみんりえらとせの春のよよよは室ア製
拾送朴承
まくとくあよりくよがよち
引くとくあよりくよがよち

未だ格を賀て代えよあと下宿のまこと

へもがや、醫國す道安

孫古賀

乃至てあむかひ、まきせ前もく

今上津手

拾迷裏草上

代君の代とそん世事よちとせやがほくくまく

孫拾足放

はもぬあむく者もくね、うきせすとくとく

長秋承康下

をせうてうくにけり、うきせすとくとく

孫拾足放

はうねと行とくとく代よ、うきせすとくとく

拾足放

わく宿るまくまくのまちらをせうとくとく

孫拾足放

うりよの先のねくまのうじをせよわや跡くん

卷之三

卷之三

玉葉雜一
秋風蕭瑟

毛氏
左大行

都拾雜上
山里が花わざかの友もん
ちうり
山家集上
うす山稀よまよてくらむ
ちああん後はまとあん
山家集上
うらまの盆
ちうりも都云
ちわちん後は和くもくも

有原基子

詞花春
春のよしはあはやまきく　うわうん後をうそ
秋秋下　春のよしはあはやまきく　うわうん後をうそ
秋古春下　春のよしはあはやまきく　うわうん後をうそ

右毛中將教之
素貴之師

古今春上
新古のまことにはらわすはらわすはらわすは
新古春上　ねぐらうててまうめのそれ
新古春下　あくまでもじまちあらはらわすは

三
立中納言定
而行其事

拾玉集七 己卯
拾送恩草上 こもりにのあせ下葉のうぢあちりよせわせのあちよせあ
は拾送秋祇 ゆうしきともあはせされのくめれ ちりのをこうりあ
金葉惟下 いのくわい

さきのまほの
義理をかうる

古今春下 このよしに様ねりや
桜花 ちりのまくひよめあらざれで
新枝古葉 つまてねゆうそも山くわ
ちるのまひよめうや花
美ふ春下

悲の奇

拾遺惠草上 ごあめの御もとよりとまよのそく
ちかのまよひよくまよび

卷之三

勅春下うるみれをもとね様あれ ちりれまよひよ奈よ
松邊春 三月の山みれもよまく花 ちりれれよ風よもよ

大納言之正
小貳令下物

拾送春
秋扇のハキヤマニヒノ
ちぢれの春の山に
釣子雜木
至りの山を
きの瀬より
ちぢれの山に
大和物也
もとくへもあり
もとくに
義経
ちぢれもと
おうちもと
人を

花園院御製

子哉走みあらざれ、いよ往のむとえんちゆゑもとてす。本のノリヒ前
子哉雜中 わらまわ音 はきくま ちりめあをともゑこひよ 実
教ち入教 じもひとく葉こなはほの葉 ちらばホモキヌヨタガス
がス

前次會議紀隆
皇太后宮大支
後凌

春は暮れ春下のよの月もあらやうもあ
ちりく春の匂うりせ、大
秋か春下ともてじまよひあく
草もちりくほの花の匂
拾迷春　嘸風とよひのひん萬葉花
ちわくすけそくひまく
みは

大納言の信
入道お太政大臣

後拾迷冬 墓穴のあづわに春あづらひて
ちかくすをましまして
秋後撰春トカクあづれ升と喜んで
ちあやあめん山吹の聲

大孤島經信
素志圖

前大僧正

卷之三

金華春

新編卷二

右兵朱然傳

金春
わはる二
長秋詠藻下
山家集上
詞花意上
新葉古冬
新葉冬
新葉春下
詞花春
新古雜上
拾玉集四
千載春上
千載春下
古今秋下
新葉春下
新柳賀
山家集上
拾玉集七

金春
わはる二
長秋詠藻下
山家集上
詞花意上
新葉古冬
新葉冬
新葉春下
詞花春
新古雜上
拾玉集四
千載春上
千載春下
古今秋下
新葉春下
新柳賀
山家集上
拾玉集七

拾玉集三

新葉雜上

月清集下

新葉春下

祠花去

長秋馨帶

新月喜下

月清集上

新葉喜下

月清集下

金葉雜下

金葉喜下

新拾魚二 爽やか余命もすとある。せのちまくありとやれの間、お成に附
壬生ニ下中 君ノ下ようとも尊也。斯キモ ちまくありとやれ
残余神祇 ちかくあらまてす月乃 ちまくありとやれ七乃山也。天台座山森勝
強古難下 うなみよたのまことひよ ちまくありけは臺灣の社 明教法師
強ほ櫻等 おもあらかじめの上す ちまくありて肩も先 有源注
風雅神祇 じまがそはまよ神也よ あ あうかとれれむ。被服成圓
郭葉左三 あうてねまのよせまきみ あ あうかとれれむ。被服成圓
壬生ニ上 いともねぐらくめらひ ちまくあれうふすめえん 有源注
壬生ニ下 君の代すまの井の土多すもすら ちまくうさん時も行
郭古神祇 すゆ山神のあくとまつに ちまくしづかうものうへ 本傳意義
郭古教 ひまくまのまのうさんおこよ ちまくじゆもとのよまくを。源空上人
郭小義傷 ちまくじゆもとのよまくを。源頼時女
残余魚三 つよき月也とひあくら ちまくじゆもとのよまくを。源道
拾遺魚下 もとひゆふくわそつまうる ちまくじゆもとのよまくを。源道
風雅魚二 田耕也。うねうらようひそて ちまくじゆもとのよまくを。源道
拾遺魚下 がくゆふせふやむまくを。らむじゆもとのよまくを。源道
大和地役 人主まの宿へくもそなよつ ちまくじゆもとのよまくを。源道
新強古難下 うなみよたのまことひよ ちまくじゆもとのよまくを。

玉葉をもてこれも又はまうまやせまつちよりもすすみの原見子
新葉をもてれば延てあひよちるれあひちよりもくわいと家を冷泉入道が奉
新勅雜一事に月をすむる宵代しむじにらきもくねくもゆうく侍けよ宣
風雅雜下神代のたる國よけくちよりもたぬ國乃有川光明寺_{本山}
新葉をもて川峯れ松もくろやいあんちよりもなみおほとばく徒ノモテス
壬生二京上草木枕まくに残る難局食萬弊もがき短歌のえ
壬生三京下被のようちひひと入居の弊もあづよのけ
甲根志二志めておれやせ草引偽られちよりもすす所あつてあ大納言經部
猪股櫻志一我被よじうきはねかねてめ川ちよりもすす所浦風も中納言家
猪股志一後毛うり社もくぬくもとされのちよりもすす中河のあ右ひ猪
猪股志二立よる方のあつてき奈そてちよりもすす所毛川あ大納言家
猪股志三このきにもとろきはかりきちよりもすすてむぎまた彈正伊勢
新拾志一弓ぬまでとたのよまに年老きつゝもあすけ日向へあ大納言家
新拾志三弓ぬまくねまにひまひひかりきちよりもすすてむぎまた彈正伊勢
新拾志四弓ぬまくねまにひまひひかりきちよりもすすてむぎまた彈正伊勢
新拾志五弓ぬまくねまにひまひひかりきちよりもすすてむぎまた彈正伊勢
新拾志六弓ぬまくねまにひまひひかりきちよりもすすてむぎまた彈正伊勢
新拾志七弓ぬまくねまにひまひひかりきちよりもすすてむぎまた彈正伊勢

卷之二

文
力

拾玉集一
君の代はさも人のものぢれ
もあはゞこよありたる
拾玉集一
まゝまゝやまゝんからぬれ
ちひばう乃家とことと
縛合
雲のふらひのほひふふ
ちひるのうとももく見え
士生三家中
承日丸あゆみもき繩打とそ
ちひるれ海は重めまひく
拾玉集一
山脈乃ぬさへとせゆまよ
もあひ海は秋乃りもじと

拾送至京下心之已甚不復可忍而歸之

9

Wetmore's new name for the genus

2

Wetmore's new name for the genus
Hillberg's new name for the genus
Goldschmidt's new name for
the genus! Wetmore's new name for
the genus!

